

# そこでしかできない、本物の体験で 「懐かしくて新しい兵庫」

## 播州織

西脇市を中心とした北播磨地域では、温暖な気候を生かした綿花栽培と水量豊富な河川を背景に織物業が発展しました。先染めの糸で柄を織る播州織は、自然な風合いや豊かな色彩、肌触りの良さが魅力。糸染めから製造・販売まで地域で一貫して行っています。



### (有)玉木新雌

2006(平成18)年設立。西脇市に直営店を構え、播州織のショールを中心に、シャツやバッグなど幅広く手がけています。

☎0795-38-8113 📠0795-38-8135



普段は語りたがらない職人が  
誇りを持って  
発信していく

### 玉木 新雌さん

[ (有)玉木新雌代表 ]

福井県生まれ。大阪の繊維商社でボタンナーとして勤務後、独立。西脇市で自社ブランドを展開。播州織作家。

## 見て体験して現地の人との交流を

**齋藤** 「ひょうごフィールドパビリオン」では、多くの方に現地を訪れ、見て、体験していただき、万博終了後も人が集まってくるようにしたいと考えています。

**古田さん** 昨年から県が取り組んでいる「兵庫テロワール旅」は、訪れた人が各地の魅力をその背景を含めて楽しむものですが、フィールドパビリオンはより地域の人々が主役となり、SDGsで掲げられている地域の課題解決につながる取り組みを発信することも重視されます。これからの観光は、ただ訪れるだけでなく、現地の人との交流が旅の目的にもなるでしょう。

**齋藤** 集まったプログラムを見てどのような印象を受けましたか。

**古田さん** まずは自分たちの地域の魅力に気付くことが大切だと感じています。認定までの過程では、素晴らしいコンテンツはさらに伸ばし、惜しいものにはアドバイスをしています。コンテンツ同士をつなげて宿泊のプランにするなど、まだいろいろな可能性を秘めています。

**齋藤** 応募されたお二人にも意気込みをお聞きしたいと思います。

**西山さん** 2014(平成26)年の豪雨による会社存続の危機を乗り越えた時に、これからは地元へ貢献しようと思いました。弊蔵の建物は国の登録有形文化財で、県の景観形成重要建造物にも指定されているので、これらを活用した事業で人を

呼び込み、地域の活性化につなげたいと考えています。

**玉木さん** 以前から世界に播州織を知ってみたいと思っていました。自分たちだけで大勢の人を呼び込むのは無理ですが、県の支援があれば周囲にも声をかけやすいので、チャンスだと思いました。職人さんは多くを語りませんが、人が来るうちに説明ももうまくなるはず。万博という決まったゴールがあるので、モチベーションを保つこともできます。



播州織のショールは、最終工程で天日干しに。

## 未来につながる課題解決を

**齋藤** 今回のテーマの一つに「持続可能な社会の実現」があります。地場産業も、苦しい状況の中でどう未来につなげるかが課題ですね。

**玉木さん** 播州織は繁栄していた時代に分業化され、効率よく生産できるようになった反面、全ての工程を知る人が減りました。そこで、全てを知り潤滑油となってみんなをつなごうと、コットンの栽培を始め、間もなく糸作りもする予定です。万博までには全工程を学び、各工程のプロたちと連携できればと考えています。職人さんの高齢化も進んでいるので、今のうちにいろいろ受け継いでおきたいです。

この取り組みが  
世界の産地を救う  
ヒントになるかもしれない

### 齋藤 元彦 兵庫県知事